

筑前續風土記拾遺

怡土郡上

十

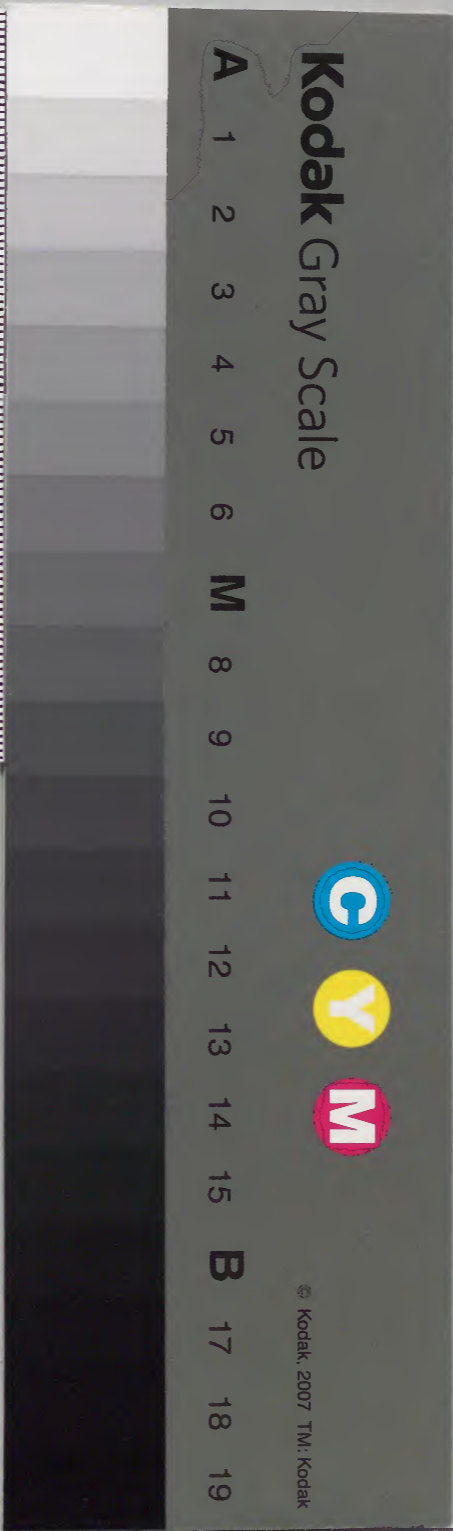
和書門	二九三七〇	一三〇	一四八
類	號	函	架
冊			

內閣文庫	和書	二九三七〇	一四
類	冊	號	架
函			

內閣文庫	番號	和	29370
冊數	14	(10)
函號	175		52

內一二四號

地八二



筑前國續風土記拾遺卷之

土郡上目錄

高祖神社 如意

宇田川原村

井田村

飯民村

周船寺村

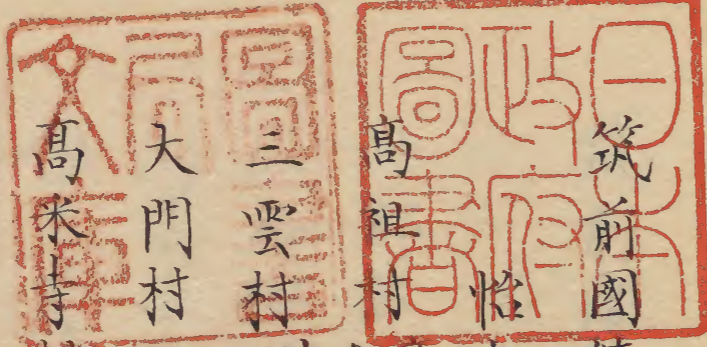
上原村 安上 叶嶽

鉢伏山

千里村 末永村

德永村 横濱浦 夷广山

王丸村



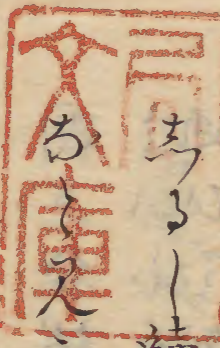
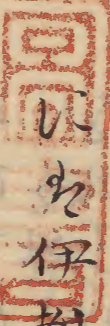
内一一〇四三號

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

筑前國續凡土記拾遺卷之

怡土郡上

此郡名古事記仲天皇乃御卷之伊斗



續日本紀十九に怡土_ゆ和名_い伊斗_い逸都_い止_い

以略以筑前國凡土記云怡土郡昔者穴戸豊浦宮御宇
 足仲彦天皇將討球广增咲ヲ幸筑紫之時怡土縣主等
 ノ祖五十跡手聞天皇幸拔取テ枝賢木ヲ立于船艦舳
 ニ上枝ニハ八尺瓊ヲ中ツ枝ニハ掛白銅鏡ヲ下枝ニハ

掛十握劔ヲ參迎テ穴門引島ニ獻之天皇勅問何誰人
五十跡手姿曰高麗國ノ意呂山ニ自天降来ル日杵之
苗裔五十跡手是也意呂山今朝鮮國の蔚天皇於斯
譽五十跡手ヲ曰恪イロキカモ乎謂伊五十跡手之本土可謂恪勒
國ト今謂怡土ノ郡ト訛也日本紀のおもむきも是に
通ひふら其本地名より出る名あり手を智と
を改了以來を伊曾ト小今も怡土ト魏志の倭人傳小
世乃人猶旧号のやト小今も怡土ト魏志の倭人傳小
當郡の記ト末盧國云云肥前國松東南陸行五
里到伊靚國ニ郡をさせり官ヲ曰爾支ト副ヲ曰泄謨

觚柄渠觚有千餘戸世有王皆統属女王ノ國ニ郡使往
来常所駐ルト見えり日本紀畧曰花山院寛和三年
四月十七日甲辰公卿参入被行小除目ヲ之間太宰府
ノ飛馭入左工門ノ陳ニ是乃伊國賊徒五十余艘起来
虜壹岐島ヲ殺害守藤原理忠ヲ并虜掠人民来筑前國
怡土郡者十八日乙巳攝政以下定申飛馭ノ事ヲ仍賜
太宰府ニ勅符并五箇條ヲ警固要害ヲ防禦山賊ヲ祈
禱ノ佛神ニ可守當境ヲ由也云云廿五日壬子從太宰
府献府ノ解ヲ廿七日甲寅大納言實資卿以下定申太
宰府言上ノ雜事等ヲ給官府於太宰府防禦刀伊ノ賊

云云九月廿二日乙亥右大臣以下定申太宰府言上刀
伊賊事かゝ見へり郡の四至を東ハ山以隔り早良
那の坂ハ至利ノ南を當郡井原山雷山小倉山一貴山
深江岳浮岳等の高山聳り峰以限りて肥前國小城郡
に至り西を同國松浦郡小境以北ハ志戸郡小隣あり
其間の民居ハ平野に村落を以て山海乃利乏く
らる郡内半より西を他領の村邑數多あり 公領仲津
領對馬領
隆景卿乃時小博多の市町ハ易地にありて本編
小詳あり其領主屢交易ありて以て他の領を以
て今に慶長ノ時ありし此餘を本編小殊ありて

かゝ

檜垣姫集に

怡土郡ハもれいひ一府官の心か付るる書あり
けりるるにのりてささい々々まきさるにわつ
ふりたりふらんやはたけりてなぬ人乃るあ
るにいはちるやへをいひへやうりてせ
るにいはねを怡土志戸の郡とてふり
いひて志戸の郡とてふりてやう

尾もぬりていひてせ

○古昔郷名ハ倭名抄 飽田 託社 託祖 託祖の誤字 高祖

村の邊をりふなつ高祖をいれ託祖と書い
 と高祖社の条小安しくつり多欠村の須原の誤字
 此地名古き大野詳長野村名雲須須原の波留と
 訓つきり聞えけ今の三雲村ありつり
 良人万葉集は良人を宇可比登と訓りり
 石田詳海部郡の北志戸郡の西深江ホの邊とつり
 つり古駅深江今世も宿駅あり別に此郡
 小駅あり深江今世も宿駅あり別に此郡
 高祖村本編りに
 民居本村如意桐宇土谷等に在廣村にて慶長郷村
 帳には高祖村の内三雲村高上村宇田河原村と記さる

あし五郎丸村とも稱せり原田氏享祿中の書にも
 村の東は高山り巽より乾に連峰長門村飯氏村
 東は上原村早良郡羽根戸村吉武村金武村南は五丸
 村末永村あり村西は田地り三雲村井原村小さる
 了川三流あり田中川西堂金口川東川末の二川を村
 の西よりつにあふ又桐川源宇土谷を村前を北小過
 了大門村の西より流あくる此外谷川あり瀧谷の水
 谷の水を古城戸に出共に出共に出共に出共に出共に出
 了出谷水を大門子出共に出共に出共に出共に出共に出
 高祖神社
 本村の上城山は麓高所小在神殿を西に向ふり當郡
 の宗社あり社傳は彦火々出見尊玉依姫余神功皇后

と祀る... 三代實錄卷三十三元慶元年九月廿五

日癸亥授筑前國正六位上高磯比咩神從五位下と凡

えたり... 按に三代實錄卷三十七元慶四年三月廿二日

る... 當社の相... 和名抄に此郡の郷名に記社あり

本編の誤... 久村の... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

ハ祖に今當社に託祖... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

年... 親種... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

大善... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

... 乃造宮の棟札と十年小原田隆一種元龜三

扎あはら此時に社を移せし其後天文十年原田
元龜三年原田の再興の棟札あり上の注のかゝく寛
文二年江龍公修補以加金所引元祿六年吳源公石鳥
居を立置ひ其後社前の磴道を修補し所をり社内に
愛敬神社或云大及陽池中島子宗陰池あり又馳道巧
了又村中に中鳥居大鳥居あり以不地あり今は此所
に鳥居いづく又工ゲの馬場棧敷あり以不所あり昔
祭日に神輿三雲村に渡御有し時原田家より神幸隨
駕の輦爰より馬に乗し以不又御輿と云所西乃田
間不在御輿と休り所より以不又潮齋川あり原田氏

七所潮齋と此所に移し潮齋場とせし以不神宝
以繪馬一扁元祿元年吳源公掲けり縁起一軸具原
撰神田寄附状天正七年大般若經了榮寄進祭祀記一
卷あり凡當社ののハ本編に祝史一戸上原氏あり祭
礼を九月廿六日恒例の祭りて流鏑馬相撲あり

太神宮

本村伊勢山に在原田氏在城の時周防此山口より勸
請一説に天文十年原田隆種伊勢
幸神社
柵小在此所乃産神あり○天満宮天神森子在此所と
上原屋敷とあり

一町許昔社務上原氏の
祖の古宅址と云ふ

金龍寺

太祖山と号し禪宗洞家周防國吉敷郡山口瑠璃光寺
の末院あり永正五年高祖城主原田彈正少弼興種開
基し其父弘種弘種を去明應五年正月の菩提寺と云ふ
悦岩悦岩を種親の法名と云ふ了意と号し本編に弘種其父種親の為し開基し
悦岩を種親の法名と云ふと享祿三年興種悦岩を種親の法名と云ふの
寺領寄進状に太祖山金龍寺者為先考悦岩悦岩を種親の法名と云ふ了意の
門菩提單叙之地也と云ふと興種父の為し建し
しる明り其状今小福出金龍寺に藏む
寺内に見挑院殿乃墳墓及原田氏代々乃墓碣十八基
内に散在せし近代位僧墓石一所に集り
及位牌ありと云ふ龍光院殿其源院殿乃尊牌を置り又

手塚甚兵衛水雪ノ墓所り什物小原田榮了寄進乃金舎
利塔高一一基あり昔北典司の書る涅槃像の有し

先年火災に焼失し今ハあり

妙立寺 本編に詳し

如意に在如意輪山と号し日蓮宗福岡勝立寺小属也
寺内小番神の石祠又觀音堂あり本編に見えし如
意輪觀音是之精工あり佛像あり堂の側に小龍有風
景し此山中佳境あり

藥師堂并觀音堂

本村にあり 其源公建立し 治屋り 兼師の像を 行基の

室圓性院 禅尼の寺 堂守行藏院を 當山派の 修驗之

○村中 廢寺の跡 多し 月光寺 禅定寺 應海寺 光玄寺 以上

寺号正字 神中寺 壽神寺 書等あり 今は 皆田圃と 似せ

○慶長の比 興雲公 村南の野地を 開き 田地と 似し

く 手塚水 雪小 命く 所小 其時の 賜書 今 農民 善五郎

と 以 不 者の家 子 藏 此 御書 に 新村 相立 と あり 八 柵村

中氏 元 龜天 正の 間 原田氏 あり あり 善五郎 八 田

文書 三 通 あり 家 藏 む 臨土郡 五郎丸 内 山 新村 相立 以 在 越 意

不 木 間 あり 二 年 去 年 夏 可 免 許 以 治 役 三 年 了

お 除 以 以 名 才 免 許 了 中 身 也 長 政 御 書 判

正 月 五 日

手 塚 水 雪

宇田川原村

民居 一 所 在 小 村 あり 慶 長 郷 村 帳 高 祖 村 の 内

有 今 小 村 内 に 高 祖 田 あり

宇田大明神社

村 乃 坤 在 産 神 あり 宇 多 天 皇 を 祭 ま り 以 上 由

縁 了 此 天 皇 を 祀 也 未 詳 あり 次

御社森

村内 正本寺 子あり森の内に神石あり 昔高祖神三雲
御輿と休り 所とつり されと
其道近潤るれを定難し

幸松

村北 田間に在 細葉冬青樹一株立ぬ 昔の松を 下に平

石ありて 盤の如し故に折敷田ともいふなりと云 千里
村石

飛来きり 一時に此盤石 伝ふ

三雲村

民居を本村郡及層児村 原際川端 寺あり村の西東に

川 東西井原川末 あり西の方仲津領藏持村に堺ありの村

名義本編の比の文書に三雲五郎道法とあり此

所小故あり人

佐々礼石社

村南に在産神あり 所祭木花閨耶姫命相殿磐長姫命

あり 本殿を彦火々出見尊の母君と云ふ 尚せは高

祖明神と御社東西に相望り ありていふ 一々神田

毛多く神人も十二家あり 村中子十二棚あり 小祠或

礼の前神人齋戒中別居せし 所と 天正十五年太

閨に神領を没収せし 昔祭日にありし流鏝馬も中

絶し馬場の境も志しあり 寛永乃末村氏 時の村

氏 寺社前乃圃以て馳道 長八十一間 あり祭日九

月廿六日旧例乃流鏑馬を再興せしむり其事今に怠
らば其年乃流鏑馬を村中に死人あはれ古へ高祖明神
の神幸小神輿を留免く地を社乃南邊小在馬場の東
に八龍森あり林に石立子森の北は芝原あり昔相撲
取し所あり凡此社實本編并縁起貝原好小詳なり○
観音堂二字安養寺址側に五輪塔あり原田臣水崎加
を郡子在大門村浄福寺の墓乃あり一宇
址の

築山

村東に在周七十五間高四間竹樹茂れり南乃傍に觀
音堂佛像長三尺五寸あり怡土縣主これ墳をへ
清賀作し

茶臼塚 端山

村乃東北に在茶臼塚周七十八間高四間の傍に松一株立了里
民曳水松と周廿五間の傍に松一株立了里
の西北相去七八間許にあり本編に出たり但端
石のり石七八間許にあり山子今社あり但一
佛と石

輿雲庵址

本村中に在廢址半を田に鋤りたる東の傍に竹林乃
中に池の址僅に残れり是を三雲池とりふ又傍に觀
音堂一字及古墓あり本編に○文政五年二月産神細

老松天神社

四枝より本村乃産神あり所祭菅神なり
太宰府安楽寺領目錄に筑前國之内井田庄あり報恩
寺有共に此村の二やちり及し昔より天満宮神領なり
菅神を祭るなりし

御子守天神社

御子守の産神あり所祭玉依姫命あり社内に男池女

池と小池二あり又社西子神石あり

流天神社

報恩寺の産神あり埴安命と祭り

太神宮

村西に在二坪の産神あり寛永十八年舟曳刑部伊勢
太神宮と勧請す刑部其比此○舞鳥社本村に在り
り詳なり○西所権現社本村に在り
り詳なり○西所権現社本村に在り

教法寺

二坪に在真宗西早良郡四箇村明法寺の未なり

法恩寺観音

往昔尊浄山法恩寺旧址あり波多江氏旧記云法恩寺
者自始洞家禅宗傳教作釈迦如来像安置此寺種信多
江氏十三墓所築之後寛元三年建立と見えり五郎
代五郎種信の母を西四郎高秀の女あり高秀を法恩寺と号

以元此西氏の為に建る所あらん

大門村

民居を本村上下に及深井に在る村の名義本編小出大
門址を村の東に在る石垣残れり門の内は高祖村
の内地名堀田の間に所は是より本城に至る大道の跡と
見えく田圃の道址に其形あり門の外深井の方に
そ岸小漆て道址に仁治元年の文書に篠原慶長郷村
文に多く見えたり安恒西村云々河内
帳は井田村乃内大門村と書きあり爰に至りて始り此
名見ゆ

天満宮二社

共に本村上下に在る大門下大門各十三戸宛の産神と

次に祭管神あり
浄福寺

上大門に在る真宗西本願寺直末あり

これに在る寺内に天満宮の画像あり社傍に梅樹あり核

割梅と云ふ此梅實の肉は去れ其核自ら二に○薬

師堂上大門莊嚴寺と云禪刹の廢址あり小池の址残

水吐あり○釋迦堂廢址あり蓮花寺○觀音堂下大門正

深井山村と今深井

大門村乃子村の名と云民家あり昔深井山靈鷲寺と

了怡土郡七ヶ寺の其一一く一山四十三坊の僧舎有
しし以ふ今を僧房一宇農家十三戸あり

熊野権現社

深井村乃東小高き所に在古中宮也所祭熊野三所宮彦
火々出見尊豊五姫命也或五依姫聖母神をも同座と
云豊五姫祠を首上宮に在
る廢し此社に合祀あり上宮地ハ東の方五町斗山
上ゴフツ岩と云所小あり今古松一株立子山神と称
は是あり社下に薬師堂あり深井山吳鷲寺本尊坐像
尺清賀の作り怡土志二天像尺各長三十二神将各
五佛の一し以ふ怡土志二天像尺各長三十二神将各
ハ寸共に備あり又本社の後に旗深松經掛松ともい
にハ此松を鑑掛松とて寺僧も然り深井山古園
に鑑掛松は高来寺村緋藏石の辺にあり

あり寶曆のうらまへハ枝葉志けく葱翠殊に濃うか
るり実小千年と也経りり今ハ折伏る僅に黄
腸のる朽残れり又薬師堂乃前に匍匐松蛇行松と
奇異ある靈木有しも近年を轉れ推けく僧家の焼突
の烟と消ぬし惜むつきもり今古松といふ
を社前に御腰掛松とい傳ふる乃りあり又堂前小
神池あり下石及橋を渡せり四辺に竹樹深く山水
流て猶佳趣多し社司関井坊を薬師堂西乃傍に在真
言宗福岡吉祥院に属す昔靈鷲寺四十二坊乃中に此
一坊のる存せり本堂に弥陀像長貳尺五寸行基作小
昔湯屋坊乃本尊か

云其下に石あり福藏院墓と云ふ又其南に万福寺址
と云ふあり其傍小文珠堂山神小祠あり十乗坊石橋
坊月待なるの址を此西に散在次坊本編に中坊寮所
あり今定
りなき

飯氏村

民居一所に在境内小川二流あり谷川と云ふは村
中を流下りて周船寺を出又久保田川と云ふは大
谷より出て千里村坂より仲田川に入其末周船寺川
と云ふ

三郎天子社

村内に在産神也蛭兒命素盞鳴尊月續尊或云事代
主命一座
祭あり○薬師堂吉祥寺
廢址○観音堂二字蓮花寺正善寺
皆廢址也
○大日堂原前古松一株立り
周三圍あり

夫婦石

立石原に在石佛尺高五二基並ひ立り本編小見
又此原に狐火あり
り今を稀あり

古墓

寺山小管七郎兵工正元和泉正
利父墓碑有正元
千三百石慶
長年中此村小居了郡縣乃事と司り其傍小古墓八基
同十九年五月十七日死す
所り正元親族家士乃墓ありと云又油田小福島伊

賀々墓といふるも有り 福島氏を原

兜塚

松尾に在石室あり寛文中此塚より骸骨並鏡一面銅
佛一躰及鎧の金具等と掘出せり 兜塚ハ後に呼ば
名ありつし今ハ八
幡塚といふのあり人乃墳なりしう詳あり以

高来寺村

民居は本村凡音寺に在古代を太宰府天満宮領あり
小村より慶長の比を井田村に属あり 村の名義本水
編小出あり
流二川有前川を高祖村如意山より出宇田川原村に
入一流を飯場川原三村乃水西堂高祖大門を經て當

村に來り共小宇田河原村小入

老松天神社

本村口小在管神を祭り社内小神石及神木乃松あり

了太宰府天満宮の料あり故小本社孤爰に祀り

以つし○印鑰社 村内石室 ○觀音堂 凡音寺小在慶

五尺外小朽木の 古佛像二躰あり

高麗寺址

村乃東北堂地畠より小地あり 本編ハ 今を草木繁茂

せり 此地に古瓦あり 中高来寺の三字付あり

井山古因て按に太宰府天満宮領目錄及慶長郷村帳添
を天文乃初大内家より出づる 然るに高麗寺小作
深井山藏書にありの

とけり多き北に似たり文字又丸尾と云所に依
却て松多き北に似たり文字又丸尾と云所に依
子塚十間所り今を再塚といふ是本編小高麗人の首
を埋みし址といふ所ありつし又村の北に五輪小
塔五六所り誰人の墳ありや詳あり又東北の方古
野山の内に経塚とてあり

緋威石

村乃良所山の尾に在大石あり近郷よりよく見ゆ
鎧掛松を此石の東十五間許に在慶長年中に枯く
云正徳中此地の石を用て高祖宮の鳥居を造らん
て石工鑿を入りに忽奇怪の事ありし故小怖て其
まや

矢倉址

風音寺の下に古塘あり

此塘小堀切くる所あり是昔

と後世開き北乃方山の内小沼きて隍の址あり此

所丸尾と云是高社城外郭の西北の隅あり丸尾より

東方草野陣高祖山上塚ゆて高き山の尾はけり是又

高祖城の外郭の筋也其間矢倉址五所有取下丸尾の

隅より十五間許東又礎石七箇本丸の内二石残り

其東二町許乃峯緋威石のを古城と云平地七間東西十

五間東を千里西を高所り又是より東三町許に一峯

来寺兩村の山峯氏所り下乃鐘撞といふ頂石六個

南を高来寺北の飯氏所り下乃鐘撞といふ頂石六個

西ハ千里三村山峯氏所り下乃鐘撞といふ頂石六個

残り又東五町許の峰飯氏村の内あり南とと相鐘
と以小礎石六個残り又東八町許の峰を草野陣の
鐘撞飯氏女原上原三村山と以以小礎石を皆正しく東
西南北の矩小布置せり尋常のより殊に大なる石を
用也又敗瓦多くありいと古代の製あり此所高祖本
城の北に當り四方乃眺望取より登臨す一し

周船寺村

民居本村新屋敷二所官道の左右に在此村名古へ
太宰府有し時主船司を置て官船を爰小繫きしより
出づる名あり一主船司のこゝに延喜式に見えり

隣村飯氏村乃内乾方當村小堤登る田字に船町と云
所あり是又主船司に縁あり考ふつし此村の境内を
なぐ昔の入海乃跡あり本編小雷山の古文書より即是
あり但し今ハ此文書同山にはあり又長祿二年に大
内教弘より深川小興へし書は怡土郡川一筋水上
周船寺と有是ハ後のことなりつ
三流あり一を草野陣山より出一ハ大谷より出今一
ハ高祖村の如意山より出大門高来寺宇田河原千里
飯氏を過て此村より一小會して田尻村に至て北海
小入る

松水天神社

村西にあり産神あり埴安命を祭れり

妙正寺

本村に在真宗西願寺直末あり○薬師堂昔中ノ前子
在○其時の本尊周船寺と云ふ寺址あり○徳寺の本尊あり○徳寺の本尊あり境内に五輪塔石
徳寺と云ふ古刹の本尊ありと云ふ境内に五輪塔石
あり是ハ万徳寺旧地屋敷坪と云所にありと爰に
移し置り

穴観音堂

丸隈山に在寛永中石窟を發き石棺を得たり中小銅
観音立像長貳寸及彌醜鏡三面今二面存も刀鏃の朽腐せ
るものあり此時此地に國君あり堂を建所ひり寛

文中頽破くくあり詳に本編其後再興あり土民ハ穴
観音ヲ称次

徳永村

民居ハ本村若宮北原井樋堰等ハ在川一流志广郡谷
村より出西く井樋堰に至北海に入往還の側南
方に大人の足形としてあり足形としてあり足形畝町と
いふ小変あり

若宮八幡宮

若宮にあり本村若宮兩所の産神也所祭應神天皇一
座也昔時原田氏繁栄の比を祭日に神幸有りと云ふ

神社の西二町許田間に森あり地名を
宮来町と呼是其遺跡ありといふ

熊野權現社

夷广山乃半腹に在南小向登り北原井樋堰横濱浦の
産神也所祭伊弉册尊彗解男命速玉男命也毎年九月
十二日の祭礼に柏弓を作めて神前に供ふる格有村
相傳ゆゑ古昔彦火々出見尊此山より柏木の弓を
作り異国の凶賊を防ぎ給ひしに有しは此式あり
又山の名を弓張山と云按に宗像古縁起に曰甲子
四月九日夷類十万人發来於夷广津高磯強石將軍住
古合戦給天皆悉討害畢とあり是相似うる傳説なり
に姑く爰又後の山上に鳴神岩高七尺と云あり今は
八大龍王以祭れり早歳子雨を祈に必驗あり云社

乃下子觀音堂あり仙像を清賀作といひ傳ふ又山北
に十王堂あり本編に
詳なり

縮荷社

北原に在安永の末小再興次此社宝永元年初て建た
る同四年早良郡下山門村生松に移せり然るに
安永八年の春村中大に疾疫を患し時占者慶社の崇
阿るよといふり依て此祠を建て祭れり云

宝珠寺

本村に在徳永山と号以法花宗博多本岳寺の末なり
開山の僧を真如院日旋寛永八年
八月癸といふ

善覺寺

北原に在真宗西博多万行寺末のり仏殿に地藏の木
仏あり古作あり相傳云此地藏仏を往昔本村の弘願
寺より源信和尚の作と云ふ ○ 觀音堂本村に在徳月寺と

古塚

關白塚と云丘あり文祿中秀吉公此地を通行し
時憩所と云ふ又鼎塚と云ふあり宝曆のは
ふり者之志と云ふ此塚を發し骸骨并鏡一面を
堀出して其傍捨置たりと土人見て元の如く埋
め其上に石棺の蓋を表に立置たりと云ふ何の時何人

の墓ありや鼎と云此塚ハ北に在周船寺村の一本
松塚ハ東ハ在穴觀音の塚を南に在中ハ湯溜池とて
池あり其左右に三聳立たり故ハ鼎塚の名あり ○ 得
永土佐入道墓とて農民藤助と云者の屋敷の内
に在此藤助即得永氏の末葉あり家に原田家より與ふし
永祿元龜の文書を藏む又百姓四郎右工門の家
に天文十年同十三年原田家の文書二通あり又百姓又吉
と云ふ者の家に享祿永祿天文天正等大内家大友家
より小田部氏小與屋と文書數通を藏むいほれも其
遠孫の者なり

土産

北原に鹽濱五町貳反四畝九歩あり良鹽を多く出以
又黒岩と云山中より白石を多く出以御蔭石に似た
了

横濱浦

民居一所に在産神ハ徳永村熊野社あり此浦を漁場
狭き故浦民小船を以て税米を載て福出に運漕せり
以て業とせり然るに享保九年志戸郡前原駄の高
家茅野屋某始て此地に倉を建て怡土郡志戸郡の年
貢米以收め廻船とて大坂にのほすこや始て今ハ

志戸

上原村

民居々本村相原堀内等以在本郡の東北の隅にある
村とて山谷廣く薪材多し海濱に遠くはて水陸
の便利あり村也闔境所々乃溪水一に落合て集川と
名はく其末青木村に出七寺川と有りて北海子入村此
より山を越て早良郡野方村ハ
通ふ小道あり藤坂越と云ふ

祇園社

村北志戸郡青木村の塚に在上原青木女原今宿四村
の産神あり所祭素盞鳴尊稲田姫命天照大神住吉三

神大己貴命あり又元祿十四年靈源公掲沼つゝ繪馬
競馬園一扁あり古社址堀ノ内山麓雜木山の内より
昌運筆

金後寺

堀内に在無量山と号し禪宗洞家福出金龍寺の末院
あり昔鉢伏山の子院あり

叶嶽地藏堂

本編小
詳あり

村の巽乃山頂小在相傳ふ此山古へ天狗山といふ愛
宕神の本地勝軍地藏を安置して大岩の上より文
明年中火災に罹り大岩焼碎けて谷に落其後又堂を

建て石像を置り天正中原田了榮仏堂と改造其後
寛永八年國君より再興瓦ありと云原田家臣吉住因
幡ら遠孫里民小在て今小堂守なり天正中吉住氏に
男子あり家女を
以下郡新取と云者に配し家督とん後改て民を
下郡と稱す原田氏出せり古文書三通を藏り

鉢伏山金剛寺址

本編に
出たり

村南高取城尾と云山の腰に在古昔怡土郡七寺の具
一あり今は僅に觀音堂一字残なり昔の仏像を火災
有て失くりし後志戸郡濱崎浦の海底より漁人
の網に掛りて上まり里人元の如く金剛寺の址を置

長福寺に在し像と爰小持来り安置すといひ傳ふ堂
の向に鉢伏岩間六間高一と云り里人の清賀上人
鉄鉢を埋し所と云昔金剛寺の子院七寺あり歸来寺
址未詳 津 壽福寺 津 東光寺 青木に 常樂寺
今青木に 津 宝幢寺 青木に 金授寺 今上原に 長福寺 原に
寺り 在觀音堂あり 寺号と 本編に 青木村七寺川ハ
今姪演順光寺に移り 寺あり 本編に 青木村七寺川ハ
又村西に法華寺址と云もあり 此子院の縁にて其名也
安上 本編に 詳あり
本編の上 在京原 原の名あり今三重の隍と委し

尋ふに第一の隍安上より本村乃上小かけて東にゆ
きなり第二の隍相原の後池の辺より西の方山内に
い新茅三の隍を相原の長福寺の際 今堀切より 東青
木村の上辺と過て此村堀内の下にいたる田地の形
勢往々残りて見ゆ 本編に見えたり 草野陣ハ山上高
陣ハ今其地 本編に見えたり 草野陣ハ山上高
詳あり 本編に見えたり 草野陣ハ山上高
土窟

兵庫谷と云所山の傍に窟あり 廣方二間 村俗兵庫の
味噌藏と呼なり 原田家人 田兵庫と云 土り 又
十三塚 西原今中塚あり 南北に連きり

長徳院墓

本編に詳あり

京原に在土封乃塚上小古松二株植て近年地藏石

仙を安置せり天明辰年村民藤作其夢を蒙り墓所柶掃く来り筑紫土野介

廣門の女として興雲公の側室甚四郎政冬ぬしの母

公也此所小火葬せしる本編に詳なり又長徳院宅乃

址あり

千里村

民居を一所に在初飯氏村に属せり按小山崎氏天文

薬師免より此田字今千里村の内あり飯氏村の内

村帳に此村産神を高祖神社あり村東は小川あり北

に流此川冬月に水絶る所あり

三社宮

村西に在産神小比古り所祭天満天神本社大門三郎天子

神本社六所神馬場と合祭あり社南門に石仏あり千

里石と云本編に見村名此石に出たり

真教寺

村内に在真宗西博多万行寺末あり

石窟

堂崎に在他所小所ありものに同くけれと頗大あり

横八尺高七尺今半々は法色あり

小金坂

村東に在天正七年七月十二日大友方立花道雪の勢
と高祖原田の兵と此坂中小て戦ひくる軍記あり

末永村

民居を本村横枕座主田建山中島外に穢多四軒塩手
小居昔の村居ハ村
西に在今古屋敷と云田地あり寛文の比今ハ所ハ移
と本編小見えり又昔を道塚備中経塚深原高木小
北民家あり今絶り本編井原の條下に末永昔ハ井
原村に属すや此に末永の名を文永中の文書に
あり等あり

若一皇子社

村東に在産神也所祭天照大神社内小祇園石神及地

藏

後裔の地蔵地蔵仏を本地あり一説は十一面觀音か
其家に文永八年の文書二通を藏む其詞に末
永名内田地觀音免と云る見えり大村南に地藏免
と云地もありと觀音地藏とも旧社の地を村
此社小縁あり
西古屋の田間にあり元祿十六年今の所小移り初

興雲公此辺に遊獵し給ひ一時雷雨頻ありは此

社に避給ひ祈念し給ひしうは忽ち晴小属しぬ其砌

御社を改造するに余ありて材木を賜りぬ其目

録今農家に藏ると左小写し傳ふ

怡土郡末永村宮造管材木とる

一拾口加え

九尺木
但多人指

としら

一 幸かえ

武乃木

むふ木

一 幸拾ねえ

但わ人指

たふ木

一 拾式丁え

但もさ武乃木

ぬえ

右さた山にて切き下り也

十一月廿一日

長政

吉田六右衛門

筆

慶長十三年三月乃棟札あり 此時のりあり

西光寺

鬼塚に在真宗西本願寺真末あり

五丸村

民居を本村萩園等在 按に天文廿年五丸氏讓状に安恒名内五丸あり

今の大門村より地境内 疑しされと慶長々

村の帳内井田村内五丸村大門村とあれを此時安恒

古名 高村より 又村東に岩河内七谷河内

あつと云高山あり川一流山内より出川原村末永村

乃坂を過て西堂川と行る 此村より飯場村小越る山

里あり又東の嶺より早良郡金武村より出る道を早良

谷越と云川原村の居民府より通ふ捷経あり

明見神社 本村に在産神あり所祭五十猛命 社説白木神社と称

五穀神

天神森に在五角の刊石に毎面神号を彫りて天照大

神倉稻魂命大己貴命少彦名命埴安命あり毎年兩度
の社日に村民集ひて祭祀を以て秋を報賽の祭として
相撲あり遠近より詣り來るり多し○觀音堂立像長五尺清賀○藥師堂觀音正光淨光寺小在小堂なり此地
真言宗乃僧刹の址あり昔王丸氏、菩提寺ありしに
以不堂の東南傍路小古墓有中は五輪の石塔一基有銘
に本照憲然禪定門○永十六年六月十三日と誌是年
應永な王丸氏の嵯峨源氏松浦中村の一族あり古來
此村に住し王丸を家号とし其始祖の事詳あり以
文永中源安養母善阿り讓を得て王丸名主たりしよ

了以後書傳はきり其子孫王丸左京亮應永同六郎享同
中務丞明應同兵庫允初神五郎後丹後守相續し大内
氏に属く代々軍旁あり永祿中王丸三河守原田了榮
小興し毛利氏小通す其後全く原田に随順く天正十
五年高祖城没落し多きは原田信種小治き筑後に移
り終に所領を失かり夫より嫡家ハ此村小歸り農民
と以るぬ未家ハ暫く小早川家に住る氏を古川と改
其後小本府の士と以りて今に兩家あり古文書拾數
通其家小藏也

土産

此村に牛蒡と出以肥大うて味美あり
 昔は井原村の産よ加て
 献上あり又菅根薯蕷茯苓り又温石
 河を出以瓦
 工の用薬あり



(Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '文庫', '大', '内閣', '庫')

